

教科	科目		担当者
国語科	現代の国語	2単位	棚橋 洸太

指導目標				
1. 日本語で適切に表現する能力、的確に理解する能力を育て伝え合う力を高め、大学入試に対応するための基礎力を身につける。				
2. 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。				
①目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深める。				
②相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深める。				
③文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させる。				

スクーリング	1単位×2回	合格：2回以上	教科書	高等学校 現代の国語（第一学習社）
レポート	全6回	合格：6枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	入試現代文の導入	1回目 ・文章の構成、形式段落と意味段落
②	5/17～5/24	日本文化論	
③	6/14～6/21	小説の読解	2回目 ・文章の構成、心情表現、情景描写
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	8/30～9/6	スポーツ論	3回目 ・評論の読み方、筆者の主張の捉え方
⑤	9/27～10/4	随筆の読解	
⑥	10/25～11/1	異文化理解論	4回目 ・異文化理解、二項対立
再提出	1/6～1/9	④～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1月中旬	レポート③～⑥

教科	科目		担当者
国語科	言語文化	2単位	棚橋 洸太

指導目標
1. 国語を適切に表現し的確に理解する能力を養成し、伝え合う力を高める。
2. 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
①国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深める。
②伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につける。
③文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして理解し、知識を身につける。

スクーリング	1単位×2回	合格：2回以上	教科書	高等学校 言語文化（第一学習社）
レポート	全6回	合格：6枚	副教材	新精選古典文法（東京書籍）
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/3～5/10	歴史的仮名遣い/動詞	1回目 ・歴史的仮名遣い、古語と現代語、品詞の種類、活用と活用形
②	5/31～6/7	形容詞/形容動詞	
③	7/5～7/12	説話/助動詞の識別（打消・過去・完了）	2回目 ・説話の読解、打消「ず」、過去「き・けり」、完了「つ・ぬ・たり・り」
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	9/13～9/20	漢文の読解（故事成語）	3回目 ・漢文の読解、返り点、書き下し文、漢文の助詞、漢文の助動詞
⑤	10/11～10/18	随筆/助動詞の識別（受身・可能・自発・尊敬・使役）	
⑥	11/8～11/15	日記文学/助動詞の識別（推量・推定・希望）	4回目 ・日記文学の読解、推量「む・むず」推定「らし・めり」、希望「まほし」
再提出	1/6～1/9	④～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1月中旬	レポート③～⑥

教科	科目		担当者
国語科	論理国語	4 単位	金田 恵奈

指導目標
1. 筆者の主張や論理構成、根拠・反論などを的確に読み取り、情報や意見を批判的・多角的に理解する力を養う。
2. 自分の考えを筋道立てて表現し、根拠に基づいた説得力ある文章や発言ができるようにする。
①筆者の立場・論点・複合的な情報を含め、内容を批判的かつ客観的に読み取る力を身につける。
②文章の構成や根拠の明示、反論の想定を意識して文章を書く力・話す力を身につける。
③学術的・実用的な文章に触れることで、大学進学や社会生活に求められる国語力を意識する。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：4 回以上	教科書	標準 論理国語(第一学習社)
レポート	全 12 回	合格：12 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	宗教論	1 回目『新しい地球観』 新たなものの特徴を理解しながら、筆者の考えを正確に読み取り、考察する。
②	5/3～5/10	《小説》人物相互のグループ分け	
③	5/17～5/24	哲学論／文学論	2 回目『SNS と意見の分極化』 社会問題に目を向けながら、論理の展開を理解し、自分に照らし合わせ理解を深める。
④	5/31～6/7	脳科学・コミュニケーション論	
⑤	6/14～6/21	日本文化論	
⑥	7/5～7/12	科学論・心理論	3 回目『科学技術は暴走しているのか』 日本の現状を考えながら、科学技術との向き合い方、捉え方を考察する。
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート提出期間	4 回目『支え合うことの意味』 抽象的な表現の意味を把握しながら、文章の意味を考える。
⑦	8/30～9/6	趣味論・工芸論／現代社会論	
⑧	9/13～9/20	《随筆》道について	
⑨	9/27～10/4	語彙と敬語	5 回目『評論におけるキーワード』 論理的文章における、キーワードを把握し、よりの確な読み取りを実践する。

⑩	10/11～10/18	文学史と口語文法	6 回目『近現代文学史』 近現代の文学について理解を深め、日本の文学の発展について考える。
⑪	10/25～11/1	接続語	
⑫	11/8～11/15	実力確認の問題	
再提出	1/6～1/9	①～⑫回のレポート提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～⑤
単位修得試験	1 月中旬	レポート⑥～⑪

教科	科目		担当者
国語科	文学国語	4 単位	松原 俊

指導目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身につけることを目指す。
①社会生活に必要な知識や技能を身につけるとともに、言語文化に対する理解を深める。(知識及び技能)
②深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げ、深める。(思考力、判断力、表現力等)
③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

スクーリング	1 単位×1.5 回	合格：4 回以上	教科書	文学国語（東京書籍）
レポート	全 12 回	合格：12 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	随筆 「雨月物語」 木内 昇 (p.p.15～18)	1 回目 「雨月物語」 ・筆者の考え方の変化を捉え、『雨月物語』が筆者にどのような影響を与えたかを考える。
②	5/3～5/10	小説 1 「窓」 いしい しんじ (p.p.34～39)	
③	5/17～5/24	小説 1 「山月記」(前半) 中島 敦 (p.p.20～33)	2 回目 「山月記」 ・登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。
④	5/31～6/7	小説 1 「山月記」(後半) 中島 敦 (p.p.20～33)	
⑤	6/14～6/21	評論 1 「詩と感情生活」 鮎川 信夫 (p.p.50～55)	3 回目 「山椒魚」 ・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。
⑥	7/5～7/12	小説 2 「山椒魚」 井伏 鱒二 (p.p.58～70)	
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	
⑦	8/30～9/6	詩歌 「永訣の朝」 宮澤 賢治 (p.p.98～103)	4 回目 「モードの変遷」 ・具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。
⑧	9/13～9/20	詩歌 「モードの変遷」 穂村 弘 (p.p.108～113)	
⑨	9/27～10/4	小説 3 「こころ」(前半) 夏目 漱石 (p.p.116～147)	5 回目 「こころ」 ・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。
⑩	10/11～10/18	小説 3 「こころ」(後半) 夏目 漱石 (p.p.116～147)	
⑪	10/25～11/1	評論 2 「文学のふるさと」 坂口 安吾 (p.p.150～160)	

⑫	11/8～11/15	近現代の日本文学史(p.p.376～393)	6 回目 近現代の日本文学史 ・ 作品が成立した背景やほかの作品との関係を調べ、作品の解釈を深める。
再提出	1/6～1/9	①～⑫回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～⑥
単位修得試験	1 月中旬	レポート⑦～⑫

教科	科目		担当者
国語科	古典探究	4 単位	金田 恵奈

指導目標
1. 古典に親しみ、我が国の伝統的な文化、価値観、ものの見方や言語文化への理解を深める
2. 古典の言語や表現を的確に読み解き、思考を深める力を身につける。
①古典を通じて、現代と過去とのつながり、共通点や相違点を考察する力を身につける。
②登場人物の心情や物語の構造、思想的背景を深く考察することで、読解力・思考力を養う。
③歴史的背景や文化的文脈を踏まえて、古典の魅力や意義を主体的に味わい、受け継ぐ姿勢を身につける。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：4 回以上	教科書	精選 古典探究(第一学習社)
レポート	全 12 回	合格：12 枚	副教材	重要古文単語 315(桐原書店)
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	助動詞の識別	1 回目『古今著聞集』 助動詞に注目し、適切に現代語訳し、 内容の理解をする。
②	5/3～5/10	係助詞・間投助詞・格助詞	
③	5/17～5/24	接続助詞・副助詞	2 回目『方丈記』 助動詞・接続助詞の識別を正確に行い、 古文を的確に読む。
④	5/31～6/7	終助詞・呼応の副詞	3 回目『伊勢物語』 敬語の仕組み、敬意の方向を確認し、 登場人物の関係性を確認しながら、内容 を理解する。
⑤	6/14～6/21	敬語	
⑥	7/5～7/12	敬語	
再提出	7/16～7/22	①～⑥のレポート提出期間	
⑦	8/30～9/6	漢文の基本	4 回目『推敲』 返り点について振り返りながら、再読 文字について理解し、内容を理解する。
⑧	9/13～9/20	再読文字	
⑨	9/27～10/4	受身形・否定形	5 回目『織女』 受身・否定・使役を理解し、内容を理 解する。
⑩	10/11～10/18	疑問形・反語形	6 回目『孟子』

⑪	10/25～11/1	詠嘆形・比較形・仮定形	反語を理解し、反語の形で現代語訳しながら、内容を理解する。
⑫	11/8～11/15	抑揚形・願望形	
再提出	1/6～1/9	①～⑫のレポート提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～⑤
単位修得試験	1月中旬	レポート⑥～⑪

教科	科目		担当者
地歴公民科	地理総合	2単位	高田 直幸

指導目標
1. 諸事象を多角的かつ的確に捉えるために、地図や各種資料を用いて効果的な地理力を養う。
2. 世界の多様な生活文化の違いを理解するために、地形・気候などその地域の自然環境、農業や鉱工業をはじめとする産業構造を歴史的背景も含め、地理的視点を養う。
①探究学習との結びつきを意識しながら、着眼点・探求力・解決力を養う。
②地理を通じた視点から政治、経済、国際関係、文化生活、地球科学等の幅広い素養を身につける。
③暗記のみに終わらず、理論的考察から理解する地理力を養う。

スクーリング	1単位×1回	合格：2回以上	教科書	高等学校 新地理総合（帝国書院）
レポート	全6回	合格：6枚	副教材	新詳高等地図（帝国書院）
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代社会 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	1回目 ・地球上の位置と私たちの生活、時差と私たちの生活、地球儀と地図、身の回りの地図、現代生活の国家、日本の位置や領域、世界を結ぶ通信網の発達
②	5/17～5/24	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活	
③	6/14～6/21	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 4節 歴史的背景と人々の生活	2回目 ・歴史的背景が人々の生活に与える影響、ヨーロッパ社会の影響が強い文化、大土地所有制が生み出した社会構造、植民地支配が残るアフリカの産業
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	8/30～9/6	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 5節 世界の産業と人々の生活	3回目 ・人々の生活を支える農業の

⑤	9/27～10/4	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食糧問題 6節 都市・居住問題	発展、人々の生活を支える工業の発展、グローバル化する現代の産業と人々の生活、多様な地球環境問題、世界のエネルギー・鉱産資源
⑥	10/25～11/1	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	4回目 ・日本の地形、地震・津波による被害、地震・津波の被災地の取り組み、ハザードマップの見方、さまざまな気象災害、気象災害への取り組み
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1月中旬	レポート③～⑥

教科	科目		担当者
地歴公民科	歴史総合	2 単位	金井 靖治

指導目標

1. 我が国と諸外国や諸地域との関係を基本的な枠組みの中で理解する。数多くの事象を題材に用いて歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
2. 「現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化」を意識し、その道筋の時間的・空間的（地理的）な要素を意識し、現代に生きる私たちの社会の在り方や直面する課題について思考する力を養う。

① 日本と世界の関わり方の変化やその背景にあったものなどを考察する。

② 「国際社会のなかの日本」という視点から時間や空間を横断する理解を養う。

③ 歴史的な事象相互の関係性を見極める総合的な考察力・思考力を高める。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：2 回以上	教科書	歴史総合－近代から現代へ－ (山川出版社)
レポート	全 6 回	合格：6 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/3～5/10	第Ⅰ部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1 回目 ・ 16 世紀のアジア各国の繁栄と、同時期にヨーロッパ各国がアジアに進出して世界規模での経済が発展したことを理解し、その影響について考察する。産業革命がもたらした世界的な影響について考察する。アメリカ独立革命とフランス革命がその後の世界に与えた影響を考察する。
②	5/31～6/7	第Ⅰ部 近代化と私たち 第3章 明治維新と日本の立憲体制 第4章 帝国主義の展開とアジア	・ 明治新政府の成立の過程において、日本の近代国家への歩みを理解する。また、日本を含む東アジア秩序の変化について考察し、明治日本がどのような国際関係を築いていったのかを理解する。2 度の戦争を経た日本の国際的立場の変化を考察する。
③	7/5～7/12	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	2 回目 ・ 第一次世界大戦に至る複雑な要因について考察する。ロシア革命とソ連の成立が国際社会に与えた影響を理解する。アメリカで大量消費社会が成立した要因とその特徴を考察する。

再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	9/13～9/20	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第6章 経済危機と第二次世界大戦	3回目 ・恐慌が世界に波及した要因と、その後の世界に与えた影響を理解する。ソ連の国際社会復帰と社会主義建設に転換した経緯を理解し、世界に及ぼした影響を考察する。昭和恐慌の要因とその影響を考察する。第二次世界大戦が起きた背景を理解し、その後の国際政治の推移を考察する。
⑤	10/11～10/18	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第7章 戦後の国際秩序と日本の改革 第Ⅲ部 グローバル化と私たち 第8章 冷戦と世界経済	・アメリカとソ連との対立の背景を理解して、ヨーロッパ諸国やアジア、中東が受けた影響を考察する。東西陣営が集団的防衛機構を構築した目的とその影響を考察する。
⑥	11/8～11/15	第Ⅲ部 グローバル化と私たち 第9章 グローバル化する世界 第10章 現代の課題	4回目 ・冷戦の終結と東欧革命との関係を理解し、その他の国際情勢の変化について考察する。冷戦後の世界で、経済のグローバル化が進んだことによる社会の変化を理解し、グローバル化の前提となった、地域統合や自由貿易圏の成立とWTOの創設とその意義を考察する。また、グローバル化がもたらす諸問題について、その原因を考察し、その対応策について考えてみる。地域紛争の代表例としてイスラエルとパレスチナとの問題について考察する。
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1月中旬	レポート③～⑥

教科	科目		担当者
地歴公民科	日本史探究	3 単位	高田 直幸

指導目標

現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化」の理解を目標とする。現在の諸問題はなぜ生まれたのか、その道筋の時間的・空間的（地理的）な要素を意識し、それらを多面的に関連づけて理解することで、現代に生きる私たちの社会の在り方や直面する課題について思考する力を養う。

①基礎知識の定着とそれらを活用し、多角的な視点で物事を考えられる思考力を養う。

②様々な出来事の複合性や関連性を理解し、過去の事象の因果関係をまとめそれらを表現する力を養う。

③「歴史（過去）に学び、現在を見つめ、未来を切り開く力を養う」ために、各自が意義や教訓を考える。

スクーリング	1 単位×1 回	合格：3 回以上	教科書	日本史探究（東京書籍）
レポート	全 9 回	合格：9 枚	副教材	最新日本史図表（第一学習社）
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第1章 先史社会の生活と文化 第2章 歴史資料と先史・古代の展望 第3章 古代社会の形成と展開 1 節 律令国家の形成と古代文化の展開 2 節 摂関政治と貴族文化	1 回目 ・旧石器時代の日本、縄文文化、大和王権と古墳文化、平安遷都と唐風文化、武士の政治進出
②	5/3～5/10	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第3章 古代社会の形成と展開 1 節 律令国家の形成と古代文化の展開 2 節 摂関政治と貴族文化 第1編 中世と日本と世界 第1章 中世社会の成立 第2章 歴史資料と中世の展望 第3章 中世社会の展開 1 節 武家政権の成立と朝廷	
③	5/17～5/24	第1編 中世と日本と世界 第3章 中世社会の展開 2 節 武家支配の広がりや国際交流 第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成	2 回目 ・武家権力による日本社会の変容、中世日本の国際交流、鎌倉幕府の誕生、執権による政治、自立する戦国大名
④	5/31～6/7	第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 第2章 歴史資料と近世の展望	

		第3章 近世社会の展開 2節 幕藩体制の確立	
⑤	6/14～6/21	第3編 近世の日本と世界 第3章 近世社会の展開 2節 近世社会の成熟と幕藩体制の動揺	3回目 ・地球的世界の形成と日本、 織豊政権による全国統一、百 姓たちの生活世界、江戸時代 の対外関係、近世身分と人々 の暮らし、アジアのなかの幕 藩体制
再提出	7/16～7/22	①～⑤回のレポート再提出期間	
⑥	8/30～9/6	第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近世社会の幕開け 第2章 歴史資料と近現代の展望	4回目 ・開国と開港、幕府の崩壊と 明治維新、資本主義の発展と 生活、世界のなかの近現代日 本
⑦	9/13～9/20	第4編 近現代の地域・日本と世界 第2章 歴史資料と近現代の展望 第3章 近現代社会の展開 1節 近代的制度の導入と新しい国際関係 2節 国民国家と資本主義の成立	5回目 ・資本主義の発展と生活、制 度改革と殖産興業政策、文明 開化と教育制度の整備、東ア ジアのなかの明治政府
⑧	9/27～10/4	第3章 近現代社会の展開 2節 国民国家と資本主義の成立 3節 両大戦間期の日本	6回目 ・政府専制への批判、立憲政 治の成立、対外関係の変容と 日清戦争、産業革命と資本主 義の定着
⑨	10/25～11/1	第3章 近現代社会の展開 3節 両大戦間期の日本 4節 第二次世界大戦と日本	
再提出	1/6～1/9	①～⑨回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～⑤
単位修得試験	1月中旬	レポート⑥～⑨

教科	科目		担当者
地歴公民科	世界史探究	3 単位	蒔苗 孝将

指導目標
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される公民としての自覚、自国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
①基礎知識の定着とそれらを活用し、多角的な視点で物事を考えられる思考力を養う。
②様々な出来事の複合性や関連性を理解し、過去の事象の因果関係をまとめそれらを表現する力を養う。
③「歴史（過去）に学び、現在を見つめ、未来を切り開く力を養う」ために、各自が意義や教訓を考える。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：3 回以上	教科書	世界史探究（東京書籍）
レポート	全 9 回	合格：9 枚	副教材	グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）
中間試験	なし	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	序 章 世界史へのまなざし 第 1 章 古代文明 第 2 章 西アジアと地中海	1 回目 ・古代ギリシアとヘレニズム世界、ローマ帝国と地中海世界
②	5/3～5/10	第 3 章 南アジア 第 4 章 東南アジア 第 5 章 東アジア 第 6 章 アフリカなど	2 回目 ・「中華帝国」の誕生、中国の分裂と多様化
③	5/17～5/24	第 7 章 イスラーム世界の拡大と繁栄 第 8 章 中世ヨーロッパ	3 回目 ・中世ヨーロッパ社会の展開、西ヨーロッパ封建社会の成立
④	5/31～6/7	第 9 章 中華世界の変容とモンゴル帝国 第 10 章 インド洋海域世界の発展と東南アジア	
⑤	7/5～7/12	第 11 章 大交易時代と世界の一体化 第 12 章 ユーラシア諸帝国の繁栄	
再提出	7/16～7/22	①～⑤回のレポート再提出期間	
⑥	8/30～9/6	第 13 章 主権国家体制の形成と交易の拡大 第 14 章 国民国家と近代社会の形成 第 1 節	4 回目 ・商業覇権と植民地建設、近世ヨーロッパの社会と文化
⑦	9/27～10/4	第 14 章 国民国家と近代社会の形成 第 2～6 節 第 15 章 世界市場の形成とアジア諸国の変容	5 回目 ・アジア 4 大帝国の繁栄～オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国、明と清

⑧	10/11～10/18	第 16 章 アジア・アフリカ諸国統治と世界分割 第 17 章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容	6 回目 ・「中華帝国」の限界と二つのアヘン戦争
⑨	10/25～11/1	第 18 章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦 第 19 章 第二次世界大戦と戦後の東アジア	
再提出	1/6～1/9	①～⑨回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～⑤
単位修得試験	1 月中旬	レポート⑥～⑨

教科	科目		担当者
地歴公民科	日本史演習	4 単位	金井 靖治

指導目標

現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化の理解を目標とする。現在の諸問題はなぜ生まれたのか、その道筋の時間的・空間的（地理的）な要素を意識し、それらを多面的に関連づけて理解することで、現代に生きる私たちの社会のあり方や直面する課題について思考する力を養う。

① 基礎知識の定着とそれらを活用し、多角的な視点で物事を考えられる思考力を養う。

② 様々な出来事の複合性や関連性を理解し、過去の事象の因果関係をまとめそれらを表現する力を養う。

③ 歴史（過去）に学び、現在を見つめ、未来を切り開く力を養うために、各自が意義や教訓を考える。

スクーリング	1 単位×1 回	合格：8 回以上	教科書	詳説日本史（山川出版社）
レポート	全 12 回	合格：12 枚	副教材	日本史図表（第一学習社）
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/18～5/10	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 第2章 古墳と大和政権 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷	1 回目 問題演習を中心に、知識の定着を測り重要なポイントの解説を行う。文化的な特徴と差異を意識しながら、古代ヤマト政権の成り立ちを確認する。
②	5/3～5/10	第3章 律令国家の形成 1. 律令国家への道 2. 平城京の時代 3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容	2 回目 問題演習を中心に、知識の定着を測り重要なポイントの解説を行う。律令体制の仕組みを確認しながら、その変容を明らかにする。
③	5/17～5/24	第4章 貴族政治の展開 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士 第5章 院政と武士の躍進 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権	3 回目 問題演習を中心に、知識の定着を測り重要なポイントの解説を行う。複雑な藤原氏の台頭の過程を確認する。なぜ武士が台頭したのか、その存在意義とともに理解する。
④	5/31～6/7	第6章 武家政権の成立 1. 鎌倉幕府の成立 2. 武士の社会 3. モンゴル襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化	4 回目 問題演習を中心に、知識の定着を測り重要なポイントの解説を行う。鎌倉幕府の成り立ちとその仕組みを確認し、なぜ衰退に向かったのかを明らかにする。

⑤	6/14～6/21	第7章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場	5回目 問題演習を中心に、知識の定着を測り重要なポイントの解説を行う。室町幕府の特徴を鎌倉幕府と比較しながら確認する。戦国時代に至る幕府の求心力低下について理解する。
⑥	7/5～7/12	第8章 近世の幕開け 1. 織豊政権 2. 桃山文化 第9章 幕藩体制の成立と展開 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造	6回目 問題演習を中心に、知識の定着を測り重要なポイントの解説を行う。太閤検地の歴史的意義を土地制度の振り返りとともに理解する。幕藩体制と幕藩社会の仕組みを理解する。
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	
⑦	8/30～9/6	第9章 幕藩体制の成立と展開 3. 幕政の安定 4. 経済の発展 5. 元禄文化 第10章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革	7回目・8回目 問題演習を中心に、知識の定着を測り重要なポイントの解説を行う。 武断政治から文治政治への転換と、財政難に直面した幕府の対応を確認する。
⑧	9/13～9/20	第10章 幕藩体制の動揺 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化	9回目 問題演習を中心に、知識の定着を測り重要なポイントの解説を行う。列強の接近と幕府の対応という軸で江戸時代終盤の政策を確認する。
⑨	9/27～10/4	第11章 近世から近代へ 1. 開国と幕末の動乱 2. 幕府の滅亡と新政府の発足	10回目・11回目 主に政治史を中心に講義し、問題演習で理解度を深める。開国から幕府滅亡、そして明治新政府の成立を時系列で確認する。
⑩	10/11～10/18	第12章 近代国家の成立 1. 明治維新と富国強兵	
⑪	10/25～11/1	第12章 近代国家の成立 2. 立憲国家の成立	12回目・13回目 主に政治史を中心に講義し、問題演習で理解度を深める。明治政府が目指した近代国家としての日本のあり方が東アジアにもたらした影響を確認する。
⑫	11/8～11/15	第13章 近代国家の展開 1. 日清・日露戦争と国際関係	
再提出	1/6～1/9	①～⑫回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～⑤
単位修得試験	1月中旬	レポート⑥～⑫

教科	科目		担当者
地歴公民科	世界史演習	4 単位	蒔苗 孝将

指導目標
現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化の理解を目標とする。現在の諸問題はなぜ生まれたのか、その道筋の時間的・空間的（地理的）な要素を意識し、それらを多面的に関連づけて理解することで、現代に生きる私たちの社会の在り方や直面する課題について思考する力を養う。
①基礎知識の定着とそれらを活用し、多角的な視点で物事を考えられる思考力を養う。
②様々な出来事の複合性や関連性を理解し、過去の事象の因果関係をまとめそれらを表現する力を養う。
③「歴史（過去）に学び、現在を見つめ、未来を切り開く力を養う」ために、各自が意義や教訓を考える。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：4 回以上	教科書	詳説世界史（山川出版社）
レポート	全 12 回	合格：12 枚	副教材	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第1章 文明の成立と古代文明の特質 2 古代オリエント文明とその周辺 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配	1～2 回目 ・ルネンサンス、宗教改革、イギリス国教会の成立、主権国家体制、フランスの絶対王政、
②	5/3～5/10	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 4 キリスト教の成立と発展 第1章 文明の成立と古代文明の特質 3 南アジアの古代文明 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 2 ヨーロッパ世界の形成	
③	5/17～5/24	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 第9章 大交易・大交流の時代 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 2 宗教改革	3 回目 ・三十年戦争と 17 世紀の危機

④	5/31～6/7	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭	4～5 回目 ・イギリスの2つの革命
⑤	6/14～6/21	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 第12章 産業革命と環大西洋革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配	6～7 回目 ・プロイセンとオーストリアの動向
⑥	7/5～7/12	第1章 文明の成立と古代文明の特質 4 中国の古代文明 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成	
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	
⑦	8/30～9/6	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	8～9 回目 ・神聖ローマ帝国とイタリア諸都市、北欧諸国、
⑧	9/13～9/20	第12章 産業革命と環大西洋革命 1 産業革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	10～11 回目 ・ネーデルラントの独立、宗教戦争と絶対王政
⑨	9/27～10/4	第14章 アジア諸地域の動揺	
⑩	10/11～10/18	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	12～13 回目 ・アジアとアメリカの古代文明、魏晋南北朝～元代の中国、イスラーム世界
⑪	10/25～11/1	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭 1 冷戦の展開	12～13 回目 ・アジアとアメリカの古代文明、魏晋南北朝～元代の中国、イスラーム世界
⑫	11/8～11/15	第18章 冷戦と第三世界の台頭 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺 第19章 冷戦の終結と今日の世界	
再提出	1/6～1/9	①～⑫回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月中旬	レポート①～⑤
単位修得試験	1月中旬	レポート⑥～⑫

教科	科目		担当者
地歴公民科	公共	2単位	金井 靖治

指導目標
1. 民主主義の本質を理解し、広い視野から政治・経済・国際関係について客観的な理解力、公正な判断力、良識ある公民として必要な態度を身につける。
2. 現実社会の諸課題にかかわる具体的な主題と問いをもとに解決策を思考・検討する力を養う。
① 現代社会が直面している諸問題を扱い、身近な問題として捉えさせ日本の立場、解決策を考える。
② 現代社会に存在する諸課題について主体的に考察し、解決策を探究する。
③ 現実社会の諸課題を発見し、その課題解決に向けて共同的に考察・構想し、自身の考えを表現する。

スクーリング	1単位×2回	合格：2回以上	教科書	公共（実教出版）
レポート	全6回	合格：6枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/3～5/10	第1部 公共の扉 第1章 社会をつくる私たち 第2章 人間としてよく生きる	1回目 ・人生における青年期の意義と社会における自己のあり方を考える。 ギリシア哲学や宗教がどのような人間観を追求したのかを理解する。中世から現代の哲学が人間の自由や主体性、社会の変革などをどのように考えたのか、そこから他者を尊重するとはどういうことかに結び付けて考察する。現代の思想家が考えた公正な社会について理解する。
②	5/31～6/7	第3章 他者とともに生きる 第4章 民主社会の倫理 第5章 民主国家における基本原理	・生命への畏敬とは何かを考え、そこから人間の尊厳について考察する。また、社会全体の利益としての自由と権利、義務のあり方を考察する。
③	7/5～7/12	第2部-1 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 日本国憲法の基本的性格 第2章 日本の政治機構と政治参加	2回目 日本の平和と安全を確保するために必要なことを考える。人権保障の内容と課題を理解する。主権者である国民の意思がどのように政治に反映されているのか、また司法に市民が参加することの意義と課題を考える。日本の選挙制度と政党政治の課題を考察し、主権者としてどのように行動すべきなのかを考える。
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	

④	9/13～9/20	第2部-2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会	3回目 現代の経済社会は、どのような課題に直面しているのか。また、市場の機能とその限界を硬質性と公平性の観点から考察する。日本の企業形態の種類と特徴を理解し、日本の企業経営の課題を考察する。
⑤	10/11～10/18	第2章 日本経済の特質と国民生活	・物価指数から日本の物価と景気の動向を考察する。金融の機能と役割について考える。政府の役割と財政・租税を理解し、持続可能な経済政策を考察する。中小企業がどのような分野で活躍し、新たな市場の開拓について考察する。環境保全と経済開発の両立について考察する。
⑥	11/8～11/15	第2部-3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題 第2章 国際経済の動向と課題	4回目 ・国家主権にはどのような課題があるのかを理解する。国際平和の維持と安定のために、国際連合にはどのような役割が求められているのかを考える。また、国際平和を脅かす問題について考察する。国境を越えて人権を保障するためには何が求められるのかを考える。 ・公平な国際経済体制や公正な貿易のあり方について考察し、経済のグローバル化によってどのような問題が生じているのか、また、グローバル化する世界で経済格差や貧困を解消するためにできる取り組みについて考えてみる。
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1月中旬	レポート③～⑥

教科	科目		担当者
地歴公民科	倫理	2 単位	蒔苗 孝将

指導目標
人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。
①青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
②人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し、広い視野に立ち、公正な判断ができる。
③現代の倫理的諸課題を自己の課題につなげ、主体的に探究する力を身につける。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：2 回以上	教科書	倫理（東京書籍）
レポート	全 6 回	合格：6 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第 1 編 現代に生きる自己の課題と 人間としての在り方生き方 第 1 章 人間の心のあり方	1 回目 ・ヘレニズム時代の社会、エピク ロス派、ストア派
②	5/17～5/24	第 2 章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I ①哲学すること ②ギリシャの思想 ③宗教と社会 ④キリスト教	
③	6/14～6/21	第 2 章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I ⑤イスラーム ⑥仏教 ⑦中国の思想 ⑧芸術	2 回目 ・万物の根源としての道、文明批 判としての道家思想
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	8/30～9/6	第 3 章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 II	3 回目 ・正義と福祉、社会の中の人間
⑤	9/27～10/4	第 4 章 国際社会に生きる日本人としての自覚	4 回目 ・情報社会の倫理、異文化理解、 現代の世界と宗教
⑥	10/25～11/1	第 2 編 現代の諸課題と倫理	5 回目 ・生命倫理、功利主義、思考実験

再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	
-----	---------	----------------	--

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1 月中旬	レポート③～⑥

教科	科目		担当者
地歴公民科	政治・経済	2 単位	高田 直幸

指導目標
1. 民主主義の本質を理解し、広い視野から政治・経済・国際関係について客観的に理解する力を身につける。
2. 政治・経済・国際関係などに関する諸課題について主体的に考察し、解決策を探究する。
①日本が直面している国際問題を扱い、自分たちの身近な問題として捉えさせ、日本の立場、解決策を考える。
②様々な出来事に歴史的・政治的背景があることを理解させ、物事を多面的に捉える力を身につける。
③現代社会における事象への関心・意欲を高め、自ら考える力を養う。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：2 回以上	教科書	政治・経済（東京書籍）
レポート	全 6 回	合格：6 枚	副教材	政治・経済資料（実教出版）
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/3～5/10	第 1 編 現代日本の政治と経済 第 1 章 現代日本の政治 1 節 民主政治の基本原則 2 節 日本国憲法の基本原則	1 回目 ・基本的人権の保障、平和主義、国会と立法、地方自治、選挙と政治意識、世論と政治参加
②	5/31～6/7	第 1 編 現代日本の政治と経済 第 1 章 現代日本の政治 3 節 日本の政治機構 4 節 現代政治の特質と課題	
③	7/5～7/12	第 1 編 現代日本の政治と経済 第 2 章 現代日本の経済 1 節 現代の資本主義経済 2 節 現代経済のしくみ	2 回目 ・財政のしくみと機能、戦後の日本経済の発展、日本経済の現状
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	9/13～9/20	第 1 編 現代日本の政治と経済 第 2 章 現代日本の経済 3 節 日本経済の発展と現状 4 節 福祉社会と日本経済の課題	3 回目 ・国際政治の特質、国際連合の役割と課題、冷戦後の国際関係と日本

⑤	10/11～10/18	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ 2節 複雑化する国際政治と日本	4回目 ・紛争・難民・テロリズム 、国際社会における日本の 役割
⑥	11/8～11/15	第2編 グローバル化する国際社会 第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済 2節 世界経済の現状と課題	
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1月中旬	レポート③～⑥

教科	科目		担当者
数学科	数学 I	3 単位	石川 京介

指導目標
1 数と式、2 次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、それらを活用する態度を身につける。
2 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培う。
①基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学的に表現や処理する技能を習得する。
②問いに対して、多面的に捉え、論理的に考察し表現する力を身につける。
③問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：3 回以上	教科書	数学 I（数研出版）
レポート	全 9 回	合格：9 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第 1 章 数と式 第 1 節 文字と式 第 2 節 実数	1 回目 ・因数分解、2 次方程式とその解き方、2 次方程式の解の公式
②	5/3～5/10	第 1 章 数と式 第 3 節 方程式と不等式	
③	5/17～5/24	第 2 章 2 次関数 第 1 節 2 次関数とそのグラフ	2 回目 ・2 次関数のグラフと 2 次方程式、2 次関数のグラフと 2 次不等式
④	6/14～6/21	第 2 章 2 次関数 第 2 節 2 次関数の値の変化	
⑤	7/5～7/12	第 2 章 2 次関数 第 2 節 2 次関数の値の変化	3 回目 ・鋭角の三角比、三角比の相互関係
再提出	7/16～7/22	①～⑤回のレポート再提出期間	
⑥	8/30～9/6	第 3 章 三角比 第 1 節 鋭角の三角比	4 回目 ・三角比の応用
⑦	9/27～10/4	第 3 章 三角比 第 2 節 三角比の応用	
⑧	10/11～11/18	第 4 章 三角比 第 1 節 データの分析	5 回目 ・代表値、四分位偏差と箱ひげ図、分散と標準偏差、相関関係
⑨	10/25～11/1	第 5 章 三角比 第 1 節 集合と論証	
再提出	1/6～1/9	①～⑨回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～③
単位修得試験	1 月中旬	レポート④～⑨

教科	科目		担当者
数学科	数学Ⅱ	4 単位	阪本 喜久

指導目標			
①数学の基本的な原理や法則を理解し、知識の習得と技能の習熟を図る。			
②得た知識・技能を的確に活用する能力と態度を身につける。			
③基礎学力到達度テストに対応できる力を身につける。			

スクーリング	1 単位×2 回	合格：4 回以上	教科書	数学Ⅱ（数研出版）
レポート	全 12 回	合格：12 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第 1 章 式と証明 p.p.8～26 第 1 節 式と計算	1 回目 ・多項式の割り算、恒等式、複素数、 2 次方程式の解と判別式、解と係数の 関係、剰余の定理と因数定理、高次方 程式
②	5/3～5/10	第 2 章 複素数と方程式 p.p.42～69	
③	5/17～5/24	第 3 章 図形と方程式 p.p.75～102 第 1 節 点と直線、第 2 節 円	2 回目 ・平面上の点、直線の方程式、2 直線の 関係、円の方程式、円と直線、軌跡と 方程式、不等式の表す領域
④	5/31～6/7	第 3 章 図形と方程式 p.p.103～121 第 2 節 円、第 3 節 軌跡と領域	
⑤	6/14～6/21	第 4 章 三角関数 p.p.124～140 第 1 節 三角関数	3 回目 ・一般角と弧度法、三角関数、三角関数 のグラフ、三角関数の応用、加法定 理、加法定理の応用、三角関数の合成
⑥	7/5～7/12	第 4 章 三角関数 p.p.141～161 第 1 節 三角関数、第 2 節 加法定理	
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	
⑦	8/30～9/6	第 5 章 指数関数と対数関数 p.p.164～174 第 1 節 指数関数	4 回目 ・指数の拡張、指数関数、対数とその 性質、対数関数、常用対数
⑧	9/13～9/20	第 5 章 指数関数と対数関数 p.p.175～189 第 2 節 対数関数	
⑨	9/27～10/4	第 6 章 微分法と積分法 p.p.192～206 第 1 節 微分係数と導関数 第 2 節 導関数の応用	5 回目 ・微分係数、導関数、接線、関数の値の 変化、最大値・最小値、関数のグラフ と方程式・不等式
⑩	10/11～10/18	第 6 章 微分法と積分法 p.p.207～220 第 2 節 導関数の応用	

⑪	10/25～11/1	第 6 章 微分法と積分法 p.p.221～232 第 3 節 積分法	6 回目 ・不定積分、定積分、面積
⑫	11/8～11/15	第 6 章 微分法と積分法 p.p.233～245 第 3 節 積分法	
再提出	1/6～1/9	①～⑫回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～⑤
単位修得試験	1 月中旬	レポート⑥～⑫

教科	科目		担当者
数学科	数学Ⅲ	3 単位	鶴岡 将典

指導目標
極限、微分法及び積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身につける。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：3 回以上	教科書	数学Ⅲ（数研出版）
レポート	全 10 回	合格：10 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第1章 関数 第2章 極限 第1節 数列の極限	1 回目 ・多項式の割り算、恒等式、複素数、2 次方程式の解と判別式、解と係数の関係、剰余の定理と因数定理、高次方程式について
②	5/3～5/10	第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	
③	5/17～5/24	第2章 極限 第2節 関数の極限 第3章 微分法 第1節 導関数	2 回目 ・平面上の点、直線の方程式、2 直線の関係、円の方程式、円と直線、軌跡と方程式、不等式の表す領域について
④	5/31～6/7	第3章 微分法 第2節 いろいろな関数の導関数	
⑤	6/14～6/21	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用	3 回目 ・一般角と弧度法、三角関数、三角関数のグラフ、三角関数の応用、加法定理、加法定理の応用、三角関数の合成について
⑥	7/5～7/12	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 速度と近似式	
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	
⑦	8/30～9/6	第5章 積分法 第1節 不定積分	4 回目 ・指数の拡張、指数関数、対数とその性質、対数関数、常用対数について
⑧	9/13～9/20	第5章 積分法 第2節 定積分	
⑨	9/27～10/4	第5章 積分法 第2節 定積分 第6章 積分法の応用	5 回目 ・微分係数、導関数、接線、関数の値の変化、最大値・最小値、関数のグラフと方程式・不等式について
⑩	10/11～10/18	第6章 積分法の応用	
再提出	1/6～1/9	①～⑩回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～⑤
単位修得試験	1 月中旬	レポート⑥～⑩

教科	科目		担当者
数学科	数学 A	2 単位	石川 京介

指導目標
1 場合の数と確率、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
2 事象を数学的に考察する能力を培い、数学を学ぶ喜びを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身につける。
①基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学的に表現や処理する技能を習得する。
②確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。
③問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：2 回以上	教科書	数学 A（数研出版）
レポート	全 6 回	合格：6 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/3～5/10	1 章 場合の数と確率 1 節 場合の数	1 回目 ・和の法則と積の法則、事象と確率、余事象の確率、独立な試行の確率、反復試行の確率、条件つき確率
②	5/31～6/7	1 章 場合の数と確率 2 節 確率	
③	7/5～7/12	2 章 図形の性質 1 節 平面図形の基礎 2 節 三角形の性質	2 回目 ・三角形の重心、三角形の外心と内心、角の二等分線と線分の比
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	9/13～9/20	2 章 図形の性質 3 節 円の性質	3 回目 ・円の接線、円周角の定理、円に内接する四角形、接線と弦のつくる角、方べきの定理
⑤	10/11～10/18	2 章 図形の性質 4 節 空間図形	
⑥	11/8～11/15	3 章 数学と人間の活動 1 節 数や位置を表す 2 節 数のつくりを調べる	4 回目 ・直線や平面の位置関係、多面体
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1 月中旬	レポート③～⑥

教科	科目		担当者
数学科	数学 B	2 単位	鶴岡 将典

指導目標
数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深める。さらに、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身につける。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：2 回以上	教科書	数学 B (数研出版)
レポート	全 6 回	合格：6 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第 1 章 数列 第 1 節 数列とその和 1. 数列、2. 等差数列とその和	1 回目 等差数列、等比数列などの簡単な数列と一般項について
②	5/17～5/24	第 1 章 数列 第 1 節 数列とその和 3. 等比数列とその和	
③	6/14～6/21	第 1 章 数列 第 1 節 数列とその和 4. 和の記号 Σ 、5. 階差数列	2 回目 第 n 項までの和、記号 Σ の意味について
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	8/30～9/6	第 1 章 数列 第 1 節 数列とその和 6. いろいろな数列の和、7. 漸化式と数列 8. 数学的帰納法	3 回目 確率変数とその分布の意味、確率変数の期待値、分散及び標準偏差について
⑤	9/27～10/4	第 2 章 統計的な推測 第 1 節 確率分布	
⑥	10/25～11/1	第 2 章 統計的な推測 第 1 節 統計的な推測	
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～③
単位修得試験	1 月中旬	レポート④～⑥

教科	科目		担当者
数学科	数学 C	2 単位	鶴岡 将典

指導目標
ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。さらに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身につける。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：2 回以上	教科書	数学 C (数研出版)
レポート	全 6 回	合格：6 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第 1 章 平面上のベクトル 第 1 節 平面上のベクトルとその演算 第 2 節 ベクトルと平面図形	1 回目 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張することについて
②	5/17～5/24	第 2 章 空間のベクトル	
③	5/31～6/7	第 4 章 式と曲線 第 1 節 2 次曲線	2 回目 幾何学的な定義に基づいて導き出された 2 次曲線の方程式とその概形について
④	6/14～6/21	第 4 章 式と曲線 第 2 節 媒介変数表示と極座標	
再提出	7/16～7/22	①～④回のレポート再提出期間	
⑤	8/30～9/6	第 3 章 複素数平面	3 回目 複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の実数倍、和、差、積及び商について
⑥	9/13～9/20	第 3 章 複素数平面	
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①、②
単位修得試験	1 月中旬	レポート⑤、⑥

教科	科目		担当者
数学科	数学演習	3 単位	阪本 喜久

指導目標

①様々な問題演習を通して数学の基本的な原理や法則を理解する。

②基礎学力到達度テストに対応できる力を身につける。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：3 回以上	教科書	なし（プリントを使用）
レポート	全 10 回	合格：10 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	数学 A 場合の数と確率 ・事象と確率 ・独立・反復試行の確率と条件付き確率	1 回目 数学 A 場合の数と確率 ・事象と確率 ・独立・反復試行の確率と条件付き確率
②	5/3～5/10	数学 I 図形と計量 ・正弦定理・余弦定理 数学 I データの分析 ・データの分析 数学 A 場合の数と確率 ・期待値 数学 B 統計的な推測 ・仮説検定	数学 I 図形と計量 ・正弦定理・余弦定理 数学 I データの分析 ・データの分析 数学 A 場合の数と確率 ・期待値 数学 B 統計的な推測 ・仮説検定
③	5/17～5/24	数学 A 図形の性質 ・三角形と比 ・三角形の辺と角、円	2 回目 数学 A 図形の性質 ・三角形と比 ・三角形の辺と角、円
④	5/31～6/7	数学 II 図形と方程式 ・点と直線 ・円	数学 II 図形と方程式 ・点と直線 ・円
⑤	6/14～6/21	数学 II 三角関数 ・三角関数のグラフ、方程式と不等式 ・加法定理	3 回目 数学 II 三角関数 ・三角関数のグラフ、方程式と不等式 ・加法定理
⑥	7/5～7/12	数学 II 指数関数と対数関数 ・指数法則と計算、指数関数のグラフ ・指数を含む方程式・不等式、対数の性質と計算 ・底の変換、対数関数のグラフと方程式・不等式、常用対数	数学 II 指数関数と対数関数 ・指数法則と計算、指数関数のグラフ ・指数を含む方程式・不等式、対数の性質と計算 ・底の変換、対数関数のグラフと方程式・不等式、常用対数

再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	
⑦	8/30～9/6	数学Ⅱ 微分法と積分法 ・接線の方程式、関数の増減と極大・極小 ・関数の最大・最小、方程式への応用、不定積分 ・定積分と面積	4回目 数学Ⅱ 微分法と積分法 ・接線の方程式、関数の増減と極大・極小 ・関数の最大・最小、方程式への応用、不定積分 ・定積分と面積 数学B 数列 ・数列、等差数列 ・和の記号 Σ 、階差数列 ・数列の和と一般項、漸化式、数学的帰納法
⑧	9/13～9/20	数学B 数列 ・数列、等差数列 ・和の記号 Σ 、階差数列 ・数列の和と一般項、漸化式、数学的帰納法	
⑨	9/27～10/4	数学B 統計的な推測 ・確率分布 ・確率変数の和と積 ・二項分布	5回目 数学B 統計的な推測 ・確率分布 ・確率変数の和と積 ・二項分布 ・正規分布 ・統計的な推測
⑩	10/11～10/18	数学B 統計的な推測 ・正規分布 ・統計的な推測	
再提出	1/6～1/9	①～⑩回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～⑤
単位修得試験	1月中旬	レポート⑥～⑩

教科	科目		担当者
理科	科学と人間生活	2 単位	白須 一光

指導目標
自然界のさまざまな事物や現象に対する理解を深める。科学技術について学習し、科学がどのように社会に取り入れられ、生活のさまざまな場面に役立てられているかを認識する。
①物質の成り立ちについて学習し、物質の特徴を理解し、分類ができるようになる。
②さまざまなエネルギーについて学習し、その有効活用について考察ができる。
③自然災害が起こるメカニズムを知り、防災に関心をもち、災害発生時の行動につなげる。

スクーリング	1 単位×5 回	合格：8 回以上	教科書	科学と人間生活（東京書籍）
レポート	全 6 回	合格：6 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	科学技術の発展 1 編 1 章 微生物とその利用 1 編 2 章 ヒトの生命現象	1 回目 生物の定義、微生物の特徴、発酵の仕組みと有用性、医療品と微生物の関係 2 回目 恒常性と免疫の仕組み、遺伝子と DNA
②	5/17～5/24	2 編 1 章 材料とその利用 2 編 2 章 衣料と食品	3 回目 金属と非金属、プラスチックの性質 4 回目 繊維の種類と特徴、栄養素の種類
③	6/14～6/21	3 編 1 章 光の性質とその利用	5 回目 波動性と粒子性、波長の長さと電磁波の性質 6 回目 光と色の認識、さまざまな生物と光の関係
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	8/30～9/6	3 編 2 章 熱の性質とその利用	7 回目 温度と熱、熱エネルギーと熱機関 8 回目 熱効率、熱平衡、エネルギー保存則
⑤	9/27～10/4	4 編 1 章 太陽と地球	9 回目 地球と月の関係性、地球が受ける太陽の影響

⑥	10/25～11/1	4 編 2 章 自然景観と自然災害	10 回目 地震のメカニズム、火山形成の仕組み 気象災害
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1 月中旬	レポート①～⑥

教科	科目		担当者
理科	化学基礎	2単位	白須 一光

指導目標
物質の構造やその性質を学習し、化学変化の原理を理解する。ミクロな視点から物質量の概念を理解し、化学反応の量的関係の計算力を定着する。
①身の回りの物質の成り立ちを理解し、性質ごとに分類することができる。
②実験器具の取り扱いを理解し、適正な実験を行うことができる。
③生活に利用される科学を認識し、その原理を理解することができる。

スクーリング	1単位×5回	合格：8回以上	教科書	新編 化学基礎(東京書籍)
レポート	全6回	合格：4枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/3～5/10	1編1章 化学とは何か 1編2章 物質の成分と構成元素 2編1章 原子の構造と元素の周期表 2編2章 化学結合	1回目 物質の分類、混合物の分離 物質の三態と状態変化 2回目 原子構造、原子番号と質量数、 同位体、電子配置、周期表 3回目 化学結合、組成式、分子の特 徴、化学結合と物質の分類
②	5/31～6/7	3編1章 物質量と化学反応式	4回目 物質量、化学反応式と量的関 係、溶液の濃度
③	7/5～7/12	3編2章 酸と塩基	5回目 酸と塩基の特徴、電離式
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	9/13～9/20	3編2章 酸と塩基	6回目 中和反応、中和滴定 7回目 滴定曲線、指示薬
⑤	10/1～10/18	3編3章 酸化還元反応	8回目 酸化数、酸化剤と還元剤
⑥	11/8～11/15	3編3章 酸化還元反応	9回目 イオン反応式、酸化還元滴定

			10 回目 イオン化傾向と反応性、化学電池、電解精錬、電気分解
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～③
単位修得試験	1 月中旬	レポート①～⑥

教科	科目		担当者
理科	化学	4 単位	白須 一光

指導目標			
物質の構造やその性質を学習し、化学変化の原理を理解する。また、物質の状態の違いによる挙動の変化に着目し、エネルギーの概念から反応の仕組みを理解する。			
①身の回りの物質の成り立ちを理解できる。また、金属と非金属の違いから見える特性を認識できる。			
②自然科学の原理を認識し、科学技術の確立の上で、必要となる自然科学の知識を確認することができる。			
③物質のもつエネルギーに着目し、エンタルピーの変化から化学変化の成立を考察することができる。			

スクーリング	1 単位×5 回	合格：16 回以上	教科書	化学（東京書籍）
レポート	全 12 回	合格：8 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/18～5/10	酸・塩基（化学基礎復習）	
②	5/3～5/10	2 編 1 章 化学反応と熱・光 2 編 2 章 電池と電気分解	1 回目 エンタルピーの変化 ヘスの法則、化学電池 の種類、電池式
③	5/17～5/24	3 編 1 章 化学反応の速さ 3 編 2 章 化学平衡 3 編 3 章 水溶液中の化学平衡	2 回目 反応速度式、正触媒 活性化エネルギー 3 回目 平衡定数、平衡移動の 原理、電離平衡
④	5/31～6/7	1 編 1 章 物質の状態 1 編 2 章 気体の性質 1 編 3 章 溶液の性質	4 回目 状態変化、気液平衡、 状態図 5 回目 気体の状態方程式 理想気体と実在気体 6 回目 溶解度、溶液の濃度
⑤	6/14～6/21	1 編 4 章 固体の構造 4 編 1 章 周期表と元素 4 編 2 章 非金属元素の単体と化合物	7 回目 結晶格子、周期律 8 回目 非金属元素化合物性質

⑥	7/5～7/12	4 編 3 章 典型金属元素の単体と化合物 4 編 4 章 遷移元素の単体と化合物 4 編 5 章 金属イオンの分離と確認	9 回目 金属元素化合物性質 10 回目 錯イオン、遷移金属化合物の特徴、定性分析
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	
⑦	8/30～9/6	5 編 1 章 有機化合物の特徴と構造	11 回目 構造式、IUPAC 命名 官能基、組成式の決定 12 回目 組成式の決定、異性体
⑧	9/13～9/20	5 編 2 章 炭化水素	13 回目 飽和炭化水素、不飽和炭化水素、IUPAC 命名
⑨	9/27～10/4	5 編 3 章 アルコールと関連化合物 5 編 4 章 芳香族化合物	14 回目 アルコールの分類と性質、アルデヒド、ケトン、カルボン酸 15 回目 ベンゼンの構造、芳香族炭化水素、フェノール類、芳香族カルボン酸、芳香族化合物の分離
⑩	10/11～10/18	6 編 1 章 高分子化合物 6 編 2 章 天然高分子化合物	16 回目 高分子化合物の分類、糖類の分類、アミノ酸とタンパク質、酵素
⑪	10/25～11/1	6 編 3 章 合成高分子化合物	17 回目 重合反応、合成樹脂、ゴム
⑫	11/8～11/15	7 編 1 章 化学的性質の利用と工業的製法 7 編 2 章 未来を創る化学	18 回目 酸化還元反応、金属の工業的製法、電解精錬
再提出	1/6～1/9	①～⑫回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～⑥
単位修得試験	1 月中旬	レポート①～⑫

教科	科目		担当者
理科	生物基礎	2単位	原田 悠汰

指導目標
生物や生物現象に関わり、理科の味方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり身につけることを目指す。
① 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技術を身に付ける。
② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
③ 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

スクーリング	1単位×5回	合格：8回以上	教科書	高等学校 生物基礎(啓林館)
レポート	全6回	合格：6枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/3～5/10	第1部 生物の特徴 第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性と多様性 第2節 生物とエネルギー	1回目 ・生物がもつ特徴、細胞と生物、細胞の構造、代謝とエネルギー、代謝と酵素、光合成と呼吸
②	5/31～6/7	第2部 遺伝子とその働き 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報とタンパク質の合成	2回目 ・DNAの構造、DNAの複製、遺伝情報の分配 3回目 ・遺伝子発現とタンパク質、タンパク質の合成、遺伝情報と遺伝子発現
③	7/5～7/12	第3部 ヒトの体の調節 第3章 神経系と内分泌系による調節 第1節 情報の伝達 第2節 体内環境の維持のしくみ	4回目 ・体液と恒常性、自律神経系と恒常性、内分泌系、ホルモン分泌の調節 5回目 ・血糖濃度の調節、ヒトの体温調節、水分量の調節
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	9/13～9/20	第3部 ヒトの体の調節 第4章 免疫 第1節 免疫の働き	6回目 ・生体防御、自然免疫 7回目 ・獲得免疫、免疫と病気

⑤	10/1～10/18	第4部 生物の多様性と生態系 第5章 植生と遷移 第1節 植生と繊維	8回目 ・環境、植生の遷移 9回目 ・遷移とバイオーム、日本のバイオーム
⑥	11/8～11/15	第4部 生物の多様性と生態系 第6章 生態系とその保全 第1節 生態系と生物の多様性 第2節 生態系のバランスと保全	10回目 ・生態系における生物どうしのつながり、種多様性と生物間の関係、生態系のバランスと変動、生態系の保全
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～③
単位修得試験	1月中旬	レポート④～⑥

教科	科目		担当者
理科	生物	4 単位	原田 悠汰

指導目標				
生物や生物現象に関わり、理科の味方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり身につけることを目指す。				
① 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。				
② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。				
③ 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				

スクーリング	1 単位×5 回	合格：18 回以上	教科書	高等学校 生物(啓林館)
レポート	全 12 回	合格：12 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	第1部 生物の進化 第1章 生物の進化 第1節 生命の起源 第2節 生物界の変遷と地球環境の変化	1 回目 ・ 生命の誕生、光合成生物の出現と地球環境の変遷
②	5/3～5/10	第1部 生物の進化 第2章 有性生殖と遺伝的多様性 第1節 有性生殖 第2節 遺伝子の多様な組み合わせ 第3章 進化のしくみ 第1節 突然変異と進化 第2節 進化の要因	2 回目 ・ 有性生殖、遺伝子型と表現型、染色体と遺伝子、減数分裂、染色体における遺伝子の位置、2組の対立遺伝子が独立である場合、2組の対立遺伝子が連鎖している場合 3 回目 ・ 塩基配列の突然変異と進化、染色体の突然変異と遺伝子重複、自然選択、集団の遺伝的構成の変化、遺伝的浮動、中立説、分子進化と分子時計
③	5/17～5/24	第1部 生物の進化 第4章 生物の系統 第1節 生物の分類と系統 第2節 3ドメイン説 第3節 細菌(バクテリア)ドメイン 第4節 アーキア(古細菌)ドメイン	4 回目 ・ 生物の分類、分類と系統、分子系統樹、3ドメイン説、原生生物、植物、菌類、動物、霊長類の誕生と人類の進化

		第5節 真核生物ドメイン 第6節 人類と起源と進化	
④	5/31～6/7	第2部 生命現象と物質 第5章 生命と物質 第1節 物質と細胞 第2節 生命現象とタンパク質	5回目 ・生物を構成する物質、細胞、細胞骨格、タンパク質の構造、タンパク質の立体構造と機能、酵素、酵素の反応とその調節、輸送に関わるタンパク質、情報伝達に関わるタンパク質
⑤	6/14～6/21	第2部 生命現象と物質 第6章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸 第3節 光合成	6回目 ・呼吸のしくみ、発酵と解糖、呼吸基質と呼吸商 7回目 ・光合成の2つの過程、光合成色素、光合成のしくみ
⑥	7/5～7/12	第3部 遺伝情報の発現と発生 第7章 遺伝情報と物質 第1章 遺伝情報の複製 第2章 遺伝子の発現 第3章 遺伝子の発現調節	8回目 ・DNAの構造、DNA複製のしくみ、複製起点、遺伝子の発現の概要、転写のしくみ、翻訳のしくみ、スプライシング 9回目 ・原核生物の転写と翻訳、遺伝子の発現調節と細胞分化、転写の調節、厳格生物における遺伝子の発現の調節、真核生物における遺伝子の発現の調節
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	
⑦	8/30～9/6	第3部 遺伝情報の発現と発生 第8章 発生と遺伝子の発現 第1節 動物の配偶子形成と受精 第2節 初期発生の過程 第3節 発生と遺伝子の発現	10回目 ・精子と卵の形成、動物の受精、卵割と初期発生、ウニの発生 11回目 ・カエルの発生、組織や器官の形成、形態形成と誘導 12回目 ・形態形成と細胞死、ショウジョウバエの発生と遺伝子の発現、カエルの形態形成と遺伝子の発現
⑧	9/13～9/20	第3部 遺伝情報の発現と発生 第9章 バイオテクノロジー 第1節 遺伝子を扱った技術	13回目 ・遺伝子を扱った技術、遺伝子の導入の方法、ゲノムの多様性とその応用

⑨	9/27～10/4	第4部 生物の環境応答 第10章 刺激の受容と反応 第1節 刺激の受容 第2節 神経 第3節 神経系 第4節 効果器	14回目 ・受容器、視覚、聴覚、ニューロンの構造と静止電位と活動電位、静止電位と活動電位の発生のしくみ 15回目 ・全か無かの法則、伝導、伝達、神経系の成り立ち、シナプスの可塑性と記憶の形成、脊髄、反射、筋肉
⑩	10/11～10/18	第4部 生物の環境応答 第11章 動物の行動 第1節 生得的行動 第2節 学習 第12章 植物の環境応答 第1節 植物の生殖と発生	16回目 ・かぎ刺激による行動、定位に関する行動、太陽を利用した行動、慣れと鋭敏化 17回目 ・条件づけ、試行錯誤と知能行動、植物の器官形成、花芽形成の環境応答、花器官の形成と遺伝子制御、被子植物の受精
⑪	10/25～11/1	第4部 生物の環境応答 第12章 植物の環境応答 第2節 発芽と成長	18回目 ・植物と環境、発芽、成長、屈性、傾性、果実の成長と気孔の開閉、光受容体と植物ホルモンの働きのまとめ
⑫	11/8～11/15	第5部 生態と環境 第13章 個体群と生物群集 第1節 個体群とその変動 第2節 種内関係 第3節 種間関係 第14章 生態系 第1節 生態系と物質生産 第2節 生態系と人間生活	19回目 ・個体群、個体群の構造、群れとその効果、縄張り、動物の社会、生物群集捕食者と被食者、種間競争と生態的地位 20回目 ・生態系とエネルギーの流れ、物質循環、窒素代謝、物質収支、生態系と生物多様性、絶滅、生物多様性と人間生活
再提出	1/6～1/9	①～⑫回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～④
単位修得試験	1月中旬	レポート⑤～⑫

教科	科目		担当者
保健体育科	体育1	2単位	木川 卓見

指導目標			
心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を身につける。健康の保持増進のための実践力を養う。			
①生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化の現状を踏まえ、体を動かす楽しさや心地よさを感じる。			
②運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付ける。			
③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			

スクーリング	1単位×8回	合格：10回以上	教科書	Active sports（大修館書店）
レポート	全3回	合格：3枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	p.p.11～19 新体力テスト p.p.27～42 体づくり運動	1回目 新体力テスト・体づくり運動
②	5/31～6/7	p.p.43～64 陸上競技	2回目 陸上競技（ウォーキング）
再提出	7/16～7/22	①、②回のレポート再提出期間	
③	11/8～11/15	p.p.65～80 水泳	3回目 球技（ネット型・ゴール型）
再提出	1/6～1/9	①～③回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①、②
単位修得試験	1月中旬	レポート①～③

教科	科目		担当者
保健体育科	体育2	3単位	城間 璃音

指導目標				
心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を身につける。健康の保持増進のための実践力を養う。				
①生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化の現状を踏まえ、体を動かす楽しさや心地よさを感じる。				
②運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付ける。				
③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
スクーリング	1単位×2回	合格：15回以上	教科書	Active sports（大修館書店）
レポート	全4回	合格：4枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	p.p.247～260 ソフトボール	1回目 新体力テスト・体づくり運動
②	5/31～6/7	p.p.209～228 テニス	2回目 ウォーキング
再提出	7/16～7/22	①、②のレポート再提出期間	
③	8/30～9/6	p.p.81～100 器械運動	3回目 球技（ネット型・ゴール型）
④	11/8～11/15	p.p.101～124 バスケットボール	4回目 球技（ネット型・ゴール型）
再提出	1/6～1/9	①～④のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①、②
単位修得試験	1月中旬	レポート①～④

教科	科目		担当者
保健体育科	体育3	3単位	城間 璃音

指導目標
心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を身につける。健康の保持増進のための実践力を養う。
①生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化の現状を踏まえ、体を動かす楽しさや心地よさを感じる。
②運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付ける。
③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

スクーリング	1単位×2回	合格：15回以上	教科書	Active sports (大修館書店) 新高等保健体育 (大修館書店)
レポート	全4回	合格：4枚	副教材	
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/3～5/10	p.p.167～186 ラグビー	1回目 新体力テスト・体づくり運動
②	7/5～7/12	p.p.143～166 サッカー	2回目 ウォーキング
再提出	7/16～7/22	①・②回のレポート再提出期間	
③	9/27～10/4	p.p.267～306 武道（柔道・剣道）	3回目 球技（ネット型・ゴール型）
④	11/8～11/15	p.p.143～164 スポーツの発祥と発展	4回目 球技（ネット型・ゴール型）
再提出	1/6～1/9	①～④のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①、②
単位修得試験	1月中旬	レポート①～④

教科	科目		担当者
保健体育科	保健1	1単位	木川 卓見

指導目標			
保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり身につける。			
① 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
②健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
③生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			

スクーリング	1単位×1回	合格：1回以上	教科書	新高等保健体育（大修館書店）
レポート	全3回	合格：3枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	6/14～6/21	第1章 現代社会と健康 p.p.11～33	1回目 健康の考え方と成り立ち 応急手当の意義・心肺蘇生法
再提出	7/16～7/22	①のレポート再提出期間	
②	9/13～9/20	第1章 現代社会と健康 p.p.34～60	2回目 喫煙・飲酒と健康
③	10/25～11/1	第2章 安全な社会生活 p.p.61～80	3回目 薬物乱用と健康
再提出	1/6～1/9	①～③のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①
単位修得試験	1月中旬	レポート①～③

教科	科目		担当者
保健体育科	保健2	1単位	木川 卓見

指導目標				
保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり身につける。				
① 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。				
② 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。				
③ 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				

スクーリング	1単位×1回	合格：1回以上	教科書	新高等保健体育（大修館書店）
レポート	全3回	合格：3枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/17～5/24	第3章 生涯を通じる健康	1回目 思春期と健康・妊娠と出産
②	7/5～7/12	第3章 生涯を通じる健康	2回目 性意識の変化と性行動の選択 家族計画
再提出	7/16～7/22	①、②回のレポート再提出期間	
③	10/11～10/18	第4章 健康を支える環境づくり	3回目 大気汚染・水質汚染・土壌汚染と健康
再提出	1/6～1/9	①～③回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①
単位修得試験	1月中旬	レポート①～③

教科	科目		担当者
芸術科	美術 I	2 単位	小池 純子

指導目標
実技、鑑賞を通して美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を身につける。
①創造活動として「デッサン」や「色彩構成」を実施し造形的な見方・考え方を追求する。
②創作活動を通して個性あふれる感性や美意識、想像力を身につける。
③創造的な表現と鑑賞能力を伸ばし、美術文化、心豊かな生活や社会についての意識を深める。

スクーリング	1 単位×2 回	合格：8 回以上	教科書	高校生の美術 1(日文)
レポート	全 6 回	合格：6 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/17～5/24	絵画（静物画・デッサン）	1 回目、2 回目 モチーフの見方、形の取り方、陰影表現
②	5/31～6/7	絵画（風景画・着彩）	3 回目 色鉛筆の使い方、着彩表現、モチーフの見方
③	7/5～7/12	絵画（人物画・着彩） 彫刻	4 回目 色鉛筆の使い方、着彩表現、モチーフの見方
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	9/13～9/20	美術史	5 回目、6 回目 色彩学、グラフィックデザイン、サインデザイン
⑤	10/11～ 10/18	デザイン（ポスター）	7 回目 色彩学、グラフィックデザイン、サインデザイン
⑥	11/8～11/15	デザイン（サイン） 映像メディア表現	8 回目、9 回目 西洋美術を中心にルネサンスから現代までの作品紹介
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	10 回目 デザインと創作

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①、②
単位修得試験	1 月中旬	レポート④～⑥

教科	科目		担当者
芸術科	音楽 I	2 単位	林 泉澄

指導目標
音楽活動や音楽を鑑賞することの楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味、関心を高め生涯にわたり音楽とともに生きる姿勢を身につける。
①音楽に関して表現意図を音楽で表すために必要な知識・技能を身につける。
②音楽に関する表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考える。
③主体的に音楽に取り組み、感性を磨き、音楽文化の継承、発展、創造に寄与する態度を身につける。

スクーリング	1 単位×4 回	合格：8 回以上	教科書	音楽 I Tutti+（教出）
レポート	全 6 回	合格：6 枚	副教材	音楽 I 学習書（教出）
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	Voice p.p.12～67	1 回目 「オーケストラ」 ～西洋音楽に欠かせないオーケストラの仕組みを基礎から学ぶ。ラヴェル作曲「ボレロ」鑑賞。
②	5/17～5/24	Instruments p.p.66～95、124	2 回目 「交響詩」 ～古典派モーツァルト、ベートーヴェンが何故有名なのか、彼らの遺した「音楽への自由の扉」を紐解くデュカ作曲「魔法使いの弟子」鑑賞。 3 回目 「ジャズ」 ～初めて「クラシック」と「ジャズ」が融合したオーケストラ作品、ガーシュウィン作曲「ラプソディ・イン・ブルー」鑑賞。
③	6/14～6/21	舞台芸術 p.p.128～139	4 回目 「映画音楽」 ～「映画音楽は、作品を支えるもう 1 人の主役」と題し、映画音楽の成長の軌跡を辿る。ジョン・ウィリアムズの作品をベルリンフィルの演奏で鑑賞。

			5 回目 音楽を扱った映画鑑賞（2 コマ） ～音楽を通して人が成長する姿を感じとる。マーチングバンドという舞台音楽をやる「ドラムライン」鑑賞。
再提出	7/16～7/22	①～③回のレポート再提出期間	
④	8/30～9/6	Appreciation p.p.108~127	6 回目 音楽を扱った映画鑑賞（2 コマ） ～音楽を通して人が成長する姿を感じとる。マーチングバンドという舞台音楽をやる「ドラムライン」鑑賞。 7 回目 「音感を鍛えよう」 ～ピアノを使用し、ソルフェージュ聴音を体験する。
⑤	9/27～10/4	身近な国々、世界の音楽・日本の伝統音楽 p.p.100~107	8 回目 サンプリングについて ～令和に入ってからさらに主流になった HIPHOP の技法「サンプリング」について、どういう技法なのか、これは作品の「盗用」なのか、「過去の作品との融合」を考える。 9 回目 現代音楽 ～ロマン派後期～近現代の、西洋音楽が迷走した時期を学ぶ。授業の最後には現代音楽の「作曲」に挑戦。
⑥	10/25～11/1	ポピュラー音楽の世界 p.p.140~143	10 回目 西洋音楽史～現代の音楽総まとめ ～第一回から学んだオーケストラやジャズ、映画音楽、現代音楽を振り返り、ビートルズやロックも交え、私達がいま聴いている音楽がいずれ「クラシック」になる日を知る。
再提出	1/6～1/9	①～⑥回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①、②
単位修得試験	1 月中旬	レポート③～⑥

教科	科目		担当者
英語科	英語コミュニケーション I	3 単位	玉寄 愛那

指導目標
言語活動の四つの技能(聞く、読む、話す、書く)に基づいた言語活動を通して、文法・語彙能力やコミュニケーションに対する積極的な姿勢を総合的に身につける。
①語彙力の定着 (ユメタン0 による単語小テストを実施)
②読解力の定着 (教科書やユメリー0 を用いて様々な文章に触れる)
③リスニング力/スピーキング力の定着

スクーリング	1 単位×4 回	合格：12 回以上	教科書	LANDMARK English Communication I (啓林館)
レポート	全 9 回	合格：9 枚	副教材	ユメタン0・ユメリー0・ユメリス0 (アルク)
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	文型と文の要素 Lesson3 School Uniform Part1	1 回目 ・ 文型の意義 ・ それぞれの文型
②	5/3～5/10	時制 Lesson3 School Uniform Part2	2 回目 ・ 過去形・現在完了形(have + p.p.) ・ 時・条件の副詞節(when, if) ・ 過去完了形、未来完了形
③	5/31～6/7	助動詞・受動態 Lesson3 School Uniform Part3	3 回目 ・ 基本助動詞 ・ 助動詞の慣用表現 ・ 受動態の作り方
④	7/5～7/12	不定詞 Lesson3 School Uniform Part4	4・5 回目 ・ 不定詞の三用法 ・ be to 不定詞, seem to do ・ 不定詞の慣用表現
再提出	7/16～7/22	①～④回のレポート再提出期間	
⑤	8/30～9/6	動名詞・分詞 Lesson6 Communication Without Words Part1	6 回目 ・ 動名詞の基本、慣用表現 ・ 分詞の種類と役割
⑥	9/13～9/20	仮定法・準動詞総合 Lesson6 Communication Without Words Part2	7・8 回目 ・ 仮定法の基本(公式) ・ 仮定法総合

⑦	9/27～10/4	関係詞 Lesson6 Communication Without Words Part3	9 回目 ・ 関係詞の基本、関係副詞 ・ 複合関係詞
⑧	10/11～10/18	比較 Lesson6 Communication Without Words Part4	10 回目 ・ 比較の全体像 ・ 比較の慣用表現
⑨	11/8～11/15	接続詞 1 年間のまとめ・長文演習	11・12 回目 ・ that の用法 ・ 紛らわしい接続詞の用法
再提出	1/6～1/9	①～⑨回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～④
単位修得試験	1 月中旬	レポート⑤～⑨

教科	科目		担当者
英語科	英語コミュニケーションⅡ	4 単位	横道 さやか

指導目標
英文を正しく理解する力（英文解釈）と、文章の構造と論理展開を理解する力を身に付け、大学の問題に対応できるようにする。
①日常的・社会的な話題について必要な情報を理解し、話や文章の展開や話し手・書き手の意図を把握することができるようにする。
②教科書の文章表現を自分の言葉にして英語で説明できるようにする。
③教科書に出た重要構文の文法表現を用いた表現を活用し、独自の文章を書けるようにする。

スクーリング	1 単位×5 回	合格：16 回以上	教科書	LANDMARK English Communication II（啓林館）
レポート	全 12 回	合格：12 枚	副教材	ユメリス 1・ユメリー1・ユメタン 1（アルク）
中間試験	あり	40%	評価	100 点法 5 段階評価

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	仮定法 単語・語法の知識	1 回目 ・ 仮定法の基本(公式) ・ 仮定法総合
②	5/3～5/10	関係詞 Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle Part1	2 回目 ・ 関係詞の基本、関係副詞 ・ 複合関係詞
③	5/17～5/24	比較 Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle Part2	3・4 回目 ・ 比較の全体像 ・ 比較の慣用表現
④	5/31～6/7	接続詞 Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle Part3	5 回目 ・ that の用法 ・ 紛らわしい接続詞の用法
⑤	6/14～6/21	文型と文の要素 Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle Part4	6 回目 ・ 文型の識別 ・ 文型の書き換え
⑥	7/5～7/12	時制 Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle まとめ	7・8 回目 ・ 時・条件の副詞節 (when, if) ・ 未来完了形+ 完了進行形
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	

⑦	8/30～9/6	助動詞・受動態 Lesson10 Our Future with AI Part1	9 回目 ・助動詞+ have p.p. , 慣用表現 ・受動態のバリエーション
⑧	9/13～9/20	不定詞 Lesson10 Our Future with AI Part2	10 回目 ・不定詞の主語、否定形、完了不定詞 ・不定詞の慣用表現
⑨	9/27～10/4	動名詞・分詞 Lesson10 Our Future with AI Part3	11・12 回目 ・動名詞の慣用表現 ・分詞構文の解釈
⑩	10/11～10/18	仮定法・準動詞総合 Lesson10 Our Future with AI Part4	13 回目 ・準動詞の主語・否定形・完了形 ・仮定法総合演習
⑪	10/25～11/1	関係詞 Lesson10 Our Future with AI Part5	14 回目 ・関係詞 what, 複合関係詞 ・関係詞の解釈、省略
⑫	11/8～11/15	比較 Lesson10 Our Future with AI まとめ	15・16 回目 ・最上級相当表現 ・比較の応用
再提出	1/6～1/9	①～⑫回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～⑥
単位修得試験	1 月中旬	レポート⑦～⑫

教科	科目		担当者
英語科	英語コミュニケーションⅢ	4単位	篠崎 長義

指導目標				
基礎学力到達度テストで実際に出題されたリスニング問題、文法問題のレベルや傾向を把握し、解けるようになる。また、長文読解問題の正答率 60%を目指す。				
①日常的・社会的な話題について、使用される語句や文などから必要な情報を聞き取り、話や文章の展開や概要、要点や話し手・書き手の意図を把握することができる。				
②未習の単語や表現が含まれていても、前後の文脈から内容を把握できる。				
③時間内に多量の文章を読む試験形式に対応するため、文単位・段落単位で情報を処理する力をつける。				

スクーリング	1単位×5回	合格：16回以上	教科書	LANDMARK English Communication Ⅲ（啓林館）
レポート	全12回	合格：9枚	副教材	ユメリス1・ユメリー1・ユメタン1 （アルク）
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	時制 教科書 Lesson 1 Incredible Edible Part1	1回目 ・「現在形」の特殊用法 ・完了形はイメージで考える
②	5/3～5/10	仮定法 教科書 Lesson 1 Incredible Edible Part2	2回目 ・仮定法の「公式」を確認 ・if なし仮定法
③	5/17～5/24	助動詞 教科書 Lesson 1 Incredible Edible Part3	3・4回目 ・would vs. used to ～ ・“助動詞 have p.p.”の用法
④	5/31～6/7	不定詞 教科書 Lesson 1 Incredible Edible Part4	5回目 ・be to 不定詞 ・to 不定詞の「バリエーション」
⑤	6/14～6/21	分詞・分詞構文 教科書 Lesson 1 Incredible Edible Part5	6回目 ・付帯状況の with ・分詞構文の「解法」・「意味」
⑥	7/5～7/12	受動態・関係詞 教科書 Lesson 1 Incredible Edible Part6	7・8回目 ・「受動態の真意」を理解する ・関係代名詞と関係副詞の識別
再提出	7/16～7/22	①～⑥回のレポート再提出期間	

⑦	8/30～9/6	比較 教科書 Lesson 2 Blood is Blood Part1.2	9 回目 ・ the +比較級、no 比較級 than ～ ・ 比較対象の省略
⑧	9/13～9/20	文型・語法・副詞 教科書 Lesson 2 Blood is Blood Part3	10 回目 ・ 「まぎらわしい副詞」の判別 ・ 5 文型の「意味」
⑨	9/27～10/4	代名詞 教科書 Lesson 2 Blood is Blood Part4	11・12 回目 ・ the other と another など ・ it /one /that の使い分け
⑩	10/11～10/18	私立大学過去問演習（文法単元） 教科書 Lesson 2 Blood is Blood Part5	13 回目 ・ 語彙・整序英作文 ・ 整序・会話・連立完成問題
⑪	10/25～11/1	長文読解 教科書 Lesson 2 Blood is Blood Part6	14 回目 ・ 具体、抽象の発見 ・ 因果表現の確認
⑫	11/8～11/15	長文読解 教科書 Lesson 2 Blood is Blood Part7	15・16 回目 ・ 内容一致の解法 ・ パラフレーズの確認
再提出	1/6～1/9	①～⑫回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①～⑥
単位修得試験	1 月中旬	レポート⑦～⑫

教科	科目		担当者
家庭科	家庭基礎	2 単位	宮川 董

指導目標
人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、自らの生活における課題を主体的に解決するとともに、その向上を図る能力と実践的な姿勢を身につける。
①家庭や地域、社会生活の中から自ら課題を見出し、解決する力を身につける。
②様々な人と協働し、自分の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を身につける。
③家庭や社会における課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを論理的に表現する能力を身につける。

スクーリング	1 単位×1 回	合格：3 回以上	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 東書
レポート	全 4 回	合格：4 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/17～5/24	第 1 章 生涯を見通す 第 2 章 人生をつくる 第 3 章 子どもと共に育つ	1 回目 収入と支出について学び、それらを生かして人生設計を行う。
再提出	7/16～7/22	①回のレポート再提出期間	2 回目 生活行為について伝統的な住居と現代の住居を照らし合わせ比較し、間取りの変化を知る。
②	8/30～9/6	第 4 章 超高齢社会を共に生きる 第 5 章 共に生き共に支える 第 6 章 食生活をつくる	
③	9/27～10/4	第 6 章 食生活をつくる 第 7 章 衣生活をつくる	3 回目 BMI などを使い健康的な食事について知り、食品の表示について読み取る。
④	10/25～11/1	第 8 章 住生活をつくる ～ 第 11 章 これからの生活を創造する	4 回目 被服などの役割について考え、材料について知り、正しい手入れの仕方を理解する。
再提出	1/6～1/9	①～④回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①
単位修得試験	1 月中旬	レポート①～④

教科	科目		担当者
情報科	情報 I	2 単位	阪本 喜久

指導目標
①情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる。
②情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養う。
③情報化社会に積極的に参画する態度を身につける。

スクーリング	1 単位×3 回	合格：4 回以上	教科書	新編情報 I（東京書籍）
レポート	全 4 回	合格：4 枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100 点法 5 段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5/3～5/10	1 章 情報で問題を解決する p.p.5～32	1 回目 ・ 情報 I を学ぶ目的とコンピュータ教室の使い方の確認 ・ パソコンの習熟度の確認
②	6/14～6/21	2 章 情報を伝える p.p.33～60	2 回目 ・ 基本的な文字入力の練習 ・ 情報化社会の現状と問題点について考える
			3 回目 ・ 表計算ソフトの基本的な使い方について確認
再提出	7/16～7/22	①～②回のレポート再提出期間	
③	9/27～10/4	3 章 コンピュータを活用する p.p.61～88	4 回目 ・ コンピュータ内部の数の仕組みについて
④	10/25～11/1	4 章 データを活用する p.p.89～116	5 回目 ・ Word の特長について確認 ・ プログラミング
			6 回目 ・ 1 年間のまとめ ・ これからの情報社会について考える
再提出	1/6～1/9	①～④回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	レポート①
単位修得試験	1 月中旬	レポート②～④

教科	科目		担当者
情報科	情報Ⅱ	2単位	阪本 喜久

指導目標			
①情報技術を活用して問題を発見・解決する探究活動を通じて、情報社会に主体的に参画し、その発展に貢献するための資質・能力を身につける。			
②情報に関する科学的な見方・考え方を深め、情報技術を適切かつ創造的に活用できる力を養う。			

スクーリング	1単位×3回	合格：4回以上	教科書	情報Ⅱ（東京書籍）
レポート	全4回	合格：4枚	副教材	なし
中間試験	あり	40%	評定	100点法 5段階評定

※ クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※ 中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を20%ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	4/19～4/26	1章 情報社会 情報Ⅰの振り返り ① 情報社会 p.p.2～9, p.p.54～63, p.132	1回目 ・情報Ⅱを学ぶ目的とコンピュータ教室の使い方、パソコンの習熟度の確認
②	5/17～5/24	2章 コンテンツ 情報Ⅰの振り返り ② 情報デザイン p.p.10～29, p.p.64～75, p.p.132～133	2回目 ・プレゼンテーションソフトの基本的な使い方について確認 ・プレゼンテーションのやり方について
			3回目 ・プレゼンテーションの実践
再提出	7/16～7/22	①～②回のレポート再提出期間	
③	8/30～9/6	3章 データサイエンス 情報Ⅰの振り返り ③ プログラミング p.p.30～41, p.p.76～91, p.133	4回目 ・プログラミング①
④	10/11～10/18	4章 情報システム 情報Ⅰの振り返り ④ ネットワークの活用 p.p.42～52, p.p.92～105, p.133	5回目 ・プログラミング②
			6回目 ・1年間のまとめ ・情報社会の進展について
再提出	1/6～1/9	①～④回のレポート再提出期間	

試験	日程	試験範囲
中間試験	7月下旬	レポート①～②
単位修得試験	1月中旬	レポート③～④

教科	科目		担当者
総合的な探究の時間	総合的な探究の時間 A、B、C	2 単位	担任

指導目標			
探究の見方・考え方を働かせ、他者や社会との関わりの中で、自己の在り方生き方を考えることにより主体的に進路実現と自己実現を目指す姿勢を身につける。			
①課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、情報を整理・分析して、まとめ・表現する。			
②主体的・協働的に取り組むとともに、他者を受け入れようとする姿勢を醸成する。			
③探究活動や「ループリック」を通して、自己を深く理解し、将来の在り方生き方を考える。			

スクーリング	1 単位×1 回	合格：2 回以上	教科書	-
レポート	全 2 回	合格：2 枚	副教材	-
中間試験	-	-	評定	-

※クラスによりスクーリングとレポートの設置回数は異なる場合がある。

※中間試験がある科目は、中間試験と単位修得試験の成績における割合を 20% ずつとする。

回	提出期間	単元・学習範囲	スクーリング
①	5 月	進路劇鑑賞振り返りシートの作成 と「ループリック」	「進路劇」の鑑賞
②	7 月	研修旅行振り返りシートの作成 と「ループリック」	研修旅行 (ホームステイ・班別自主研修)
③	10 月	林間学校振り返りシートの作成 と「ループリック」	林間学校 (チームビルディング・PA・飯盒炊飯)
④	11 月	日本大学学部説明会振り返りシート	日本大学学部説明会
⑤	12 月	進路相談会鑑賞振り返りシートの作成	進路相談会への参加
⑥	12 月	卒業生講話振り返りシート と「ループリック」	卒業生講話

試験	日程	試験範囲
中間試験	7 月下旬	-
単位修得試験	1 月中旬	-